

留学育英生からのたより

現在の私の満ち足りた日々

鄭 貴霞氏 (台湾)
第17回育英生

黒田武志理事長殿

日本へ留学して5年目になります。始めの4年は(外人ゆえに)日本の習慣に馴染むのに随分苦勞しました。また私の年齢が68歳なので皆様は気がかりの様ですが、真剣に研究していると若い人達と少しも変わらないことに気がついたので。

振り返って、私は小さい時から農、医、工、商と色々な経験を積んで来ました。台湾の田舎で生まれて日本語は母国語の様に小さい時から習いました。父は学校の校長で母は無医村の助産婦でした。私は長女ですが生まれて間もなく乳母に育てられ、不自由のない少女時代を過ごしたのです。

しかし終戦前、私が12、3歳であった小学4、5年の頃、台湾も戦争中は日本と同様に国家総動員で、若い男性達は皆出征しました。そのために農家は人手不足となり、私たち小学生も田植え、稲刈り、甘薯栽培等に駆り出されて苦勞したのです。私の乳母の子も出征して、中国の有名な除州の戦いに参加して負傷をして還って来ました。

終戦後、私は有名な彰化市の高等女学校を卒業し、母の勧めで戦後新しく出来たアメリカ式の医事専門学校に入学し、その合訓第1回卒業生で護理、助産婦の資格を得て直ぐに病院に勤務する傍ら護理学校の護理技術の教員を兼ねました。その3年後に結婚して2女、2男を育て、8年間は専業主婦としてすごしました。

しかし私は次第に人生に対して疑問を持つようになり、苦悶の日々が続いていました時、道端で金剛經の説法をしていた、游宝蔵居士に出会い色々とお教の事を教えられました。(去年の7月16日に私達は38年ぶり再会しました。)その後、勧められて文化大学教授印順法師に帰依し、法恵と言う法名を頂き私は在家仏教に帰依したのです。

その後、私は再び公務員に就職しました。しかしこの8年の職場の空白期は、すでに沢山の優秀な後輩が続出して、競争も激しく、私の華やかな立場は無くなっていました。時間の流れの無常を直に感じました。

そしてちょうどその時台湾の高度経済成長の発展時期で、私は簡単な訓練を受けたのち、縁あって自分で会社を設立して台湾の十大建設に参加し、事業や貿易を始め、早朝から真夜中まで働きました。そして仕事の関係で国から国へと廻りました。それはすべて自分で責任を負うことです。彼のイラン革命の起こる3ヶ月前のことでした。そして世界の人々の差異、特にアフリカ、東南アジアの後進国の現実を見て、人間の生きていく苦しさ悲しさを無尽に感じました。

また1975年には建材をサウジアラビア等へ輸出して、道のないところにプレハブの仮住まいを建てて、道路工事にも協力したのです。

1982年アメリカによる台湾の移民解放政策によって、息子達も兵役適齢に達して出国出来るので、私達家族全員はアメリカに移民したのです。

そしてカリホニアの雲林寺で週2回密教を4年間と後に年3回の集中講義に参加しました。そこにはアメリカ各地から集まって来る在家の人達の外に、外国からも一緒に易経、風水や密教の研学と実際の修法が有り、また一緒に食事をし、余興として歌を唄ったりして楽しい時を過ごしました。現在アメリカ以外の国にも広がりつつあります。

そして別にミルブレイの曹洞宗禅センターで、本土のアメリカ人達と一緒に坐禅したとき、一番感動したことは食事の作法です。食後湯水で以て食器を洗い次回また使用することです。道元禅師の教えの作法が窺えます。

1983年アメリカでケヤホームを開設した後に、もっとアメリカ式に経営したいとMission Collegeへ研読に入ったのです。しかしその13年後に自分が良いことを一生懸命努力しても、現実を受け入れ

られないことに気づいて、自分の行為が大した意味を持たないと感じたのです。そんな現実的な行為よりも、もっと宗教の生命的意義の理解、その価値や経験を把握をしたいと考えはじめました。

それには伝統的な学究や実習が必要であって、正しい信仰と実践の面をもっと高めたい、そして実際に即したと思ったのです。

そこで私は経営していたケヤホームその他、一切を始末して中国、日本の旅に出かけて高野山へ行きました。そして5年前に、もう一度学校に入って勉強する事に決めたのです。

人生には決まった法則が無いのであり、危険を転化し、以進為退、以退為進とある様に、その時の自己判断によって方向を決める外はないと思います。

このいろいろな経験によって現実の移り変わり、とくにお金が増えてきたときの人間性の変化を現実に見て、人は如何にお金持ちに弱いか情けないか、また反対に如何に高慢であるかを常に見て感じてきました。それは富でも貧でも心の持様であり、仏教で言う常に慈悲心を持って人に接する心掛けが重要であると思います。

病院では人間の生と死のケアーに直接携わり、本人と親族の苦と楽は人生において必ず経過するべき道であることを深く感じました。この苦と楽から解放されるためには常に無執着に生きる経験を習積する必要があります。

日本に来ていろいろ苦勞はありましたが、時が経つにつれ、それらがすべて私を高度の勉学へと導いてくれたと思われます。勉強は楽しいです。今まで経験したことが自然と学問に繋がって、網の目の様に系統的に整理されて、とても興味深いと思います。

高野山では密教の得度をして護摩を修しました。3年前、師匠土生川正道理事長のご指令で梵文を勉強した時、チベット語と同時に2つの語学を習うことには懸念がありましたが、今日種智院大学密教学所長、北村太道教授の40年の結晶チベット語と梵語で原典を読むことを学ぶに当たって、とても役立ったのであります。

らなければ無事であることが明確に理解出来ました。そして日常において節約する習慣は養成すべきです。現在世の中は医薬や福利制度が十分に発達して、健康保持や生活には困らないです。

日本古代の文献を読むと、昔の人々は何の生活の保障も無く生きていたのです。私達は良い時代に生まれて安定した生活が出来ることに感謝するべきです。

過去に事業していたとき、また日本に来て仏教研究に入り、それから花園大学に入学したとき、更にこの博士過程への進学に至るまで、私は幾度も、危機に曝されながらいつもそれを乗り越えて来ました。それは自分自身の努力と周囲の善知識の導きと、ひとえに仏の加護を被っていたことであると、今私は一番深く感じてまた信じています。

それは禅宗の菩提ダルマが言う任運随縁であり、現在に至るまで私は無所有のままに、自分なりに生涯を通じて生きて来たつもりです。

もちろん私は何をやるにも自分の総ての精神を投じて行う他に、経験によって分析する性格を持っていますが、とにかく何時も目に見えない何か繋いでいてくれることを感じるのです。それは私が無執着でありながら、何事も良い方向に持って行く、機会を待つ、何時でも遅くないという考えからであろうと思います。

今は、偶然バス停で知り合った里親のお世話で良い借家に住むこともでき、黒田理事長殿のお陰で生活の改善も出来ました。これら総て善知識のご指導と自分の願求と仏の厚い加護によって今日の私が形成されたのです。将来は問わず、現在の私は心静かに季節の移り変わりを身じかに感じられるようになり、学期中、真夜中まで頑張る忙しいチベット語と梵文の原典研究を離れて、此の夏休みに和訳の密教教典を楽しく研読出来る充実した日々の暮らしに感謝しています。日本でいろいろと御指導して下さいました方々に心からお礼申し上げます。

合掌九拜

また西村学長の御指導によって、私は再び密教を本格的に学ぶことが出来るようになり、日本でなくてはできない研究が出来ましたことにおいて特に感謝に耐えません。

今回黒田理事長の御親切で此の拙文を書くに当たり、私は考えました。私を形成したのは38年前に遡る金剛般若経の教えすなわち無執着であったと思います。

私はこの38年来、この無執着を実行して来たのです。そして花園大学で初めて無執着が空であることを知りました。それは私が過去3回も全財産を捨てたからです。

はじめのそれは義父が没した時、私は財産分与に参加しなかったのです。そして自分で働きに出ました。それは財産に対しての無執着の実行でありました。そういう38歳の私に、いろいろな縁が結ばれて事業を創めることができたのです。

2回目はアメリカへ移民した後、歿った夫が私の買った台湾の3軒の家を1986年に売ったのです。その後1年足らずの間に物価が高騰して、せっかくの不動産が無意味になってしまったのです。これもやはり仏教の教える無常ですね。しかし無執着な私は苦に成らないわけです。最後の5年前に、私自身と友達の意見を総合して、自分ですべての財産を処分したのであり、このことは現在でも尚悔いていません。幸い、私の弟と息子が支持してくれましたので、それ故に安心して日本で勉強ができるのです。

そしてもっとも私を激励してくれたのは、アメリカの林雲大師から届いた4尺×8尺の大きな“佛字のタンカ”です。また大師は高野山へ3回も御来訪頂き関心を示して下さいましたことであります。

お金は天下の回り物であり、執着しても無常ゆえに永遠は無い。しかし私には支えがあり必要の時には自然に入って来ます。もちろんお金は多いのに越したことはありませんが、原則的には無理して作っても矢張り無くなると思います。

この点仏教が教える粗茶、淡飯、布衣は、実行すべきで、欲を張

